

お家でも考えた！お家の人とやってみた！ 品川区立西品川保育園（東京都品川区）

【5歳児】

<園で楽しんだ主な活動>

自然を遊びに取り入れて色水遊び

畑を借りている三木小学校へ行き、自分たちが植えたサツマイモの生長を観察した後、雑草をもらってきて色水遊びを楽しむ。（色々な花があることを発見！ドクダミという名前を聞いて驚き！）

小学校から採って来た葉っぱや園庭にある桜の葉っぱを使い、色水遊びをする。いつも桜の葉っぱできれいな色水を作っているC児は上手にふるいを使って色水を作る。それを見てD児が同じようにきれいな色を出したくて桜の葉っぱとふるいを持っているが（好奇心）やり方がよくわからずにいた。保育者の援助もあって何回も挑戦し（意欲・挑戦）、友達の「こうやって力を入れてやるんだよ！」という助言を受けて色水ができ、喜ぶ。（できた喜び・達成感）

みんなで色出しした蓬とつつじの色水を使い和紙を三角に折ったり、四角に折ったりして折染めを楽しむ。きれいな色ができた喜びや驚き、なかなか色が付かない疑問や興味・共感、きれいな色に染める発見や工夫を体験する。みんなで散歩に行った時に集めた石を使って和紙を染める。石でどうやって色を付けるんだろう？と驚き、考える。折った和紙の中に蓬やつつじを入れて床に置き、上から石でたたいてみると色素が和紙に付き、きれいな模様ができる。子どもたちはそれを見てビックリしていた。



事例1 色水の色が消える <自然の変化に驚く>

園庭で桜の葉っぱ、蓬、シャクヤクの花を使って色水遊びをした。父親に色の出し方を教えてもらったと言って、シャクヤクの花とふるいを使ってきれいな鮮やかな濃いピンクの色を出して大喜びのMちゃん！それを見ていたSちゃんも負けじと、同じように色を出し、ペットボトルいっぱいにして水を足して薄めていた。

子ども：「先生見て！きれいでしょ！」 **達成感！驚き！**

子ども：「二人でやったらこんなきれいなのができたんだよ」 **自信！共感！**

保育者：「とってもきれいな色水が出来たね。またお父さんに見せてあげないとね」

子ども：「うん！じゃあロッカーの上に置いておいていい？」

保育者：「いいよ。みんなにも見せてあげようね」

今日の出来事を報告して、ロッカーの上に置くことになる。（時々3歳児が興味をもって見たり触ったりしていた）

お昼ごはんとお昼寝の間の約2時間後、「先生！大変！来て！私の色水が！」「先生～！色水の色が消えちゃった！」と驚いて話す。「ほら！私のもあんなにきれいだったのに透明になっちゃった！」自分のペットボトルを持ちながら子どもたちは今にも泣き出しそう…。そんな様子を感じ取って、他の子どもたちも集まり始めるが声もなく…。

<休みの間、ずっと考えていた> **強い探究心！**

ペットボトルに作った色水が消えてしまったことは、子どもの心にとても深く刻まれていた。その時の状況を、家庭に帰ってから両親に話して、ずっと悩んでいたようで、1週間後、「先生！分かったよ！」と息を切らせながら走ってきたA児は「この間の色が消えちゃったやつ！あのね、お花と葉っぱとでは葉っぱが強くお花のほうが弱いんだよ！お花は水道のお薬に負けちゃったんだよ！お花が子どもで、葉っぱがお父さんなんだよ！だから色が消えちゃったんだ！」と言った。

得意そうなA児の顔が印象的だった。

疑問を解決！ 気付き！自分なりの答えを発見！

事例2 保育園でやったことを、両親と一緒にやってみた

保育園でやった花の色出しがとても面白かったようで、お休みの日に両親と一緒にやってみた。

A児：「先生、お休みの時にAちゃんと一緒に葉っぱとお花を石でトントンしたんだけどできなかったよ！

保育園ではできたのに…」と言う。

疑問？！

保育者：「お休みの日にやったんだ。何で色が出なかったんだろうね」と尋ねる。

A児：「わかんない！ だって保育園とおんなじにやったんだよ！」

保育者：「どんな風にやったの？」

A児：「白いハンカチにお花を包んで石でトントンしたの」

保育者：「そうかハンカチでやったんだ。保育園でやったときは和紙だったよね」

A児：「でもお母さん、ハンカチでもおんなじだよって言ってたよ！」

保育者：「そうか～。じゃあ何で色が出なかったんだろうね？」

A児：「う～ん・・・」 **疑問？！**

（結局本人は答えまでたどり着けなかった。保育園でやったことを、すぐに家庭でもやってみようとしたことに、子どもたちの成長を感じて、悩みながらやった様子が目に浮かぶようであった）

みどころ

興味深く印象的で心に残る経験は、幼児期の子どもであっても“やったことを親しい人に伝えたい”“再現してみたい”“確かめてみたい”という思いにつながります。そのため、園であったことを家庭で、家庭であったことを園で、やってみたり経験したことを話したりすることは、様々な活動で見られます。

この事例のように、「園での取り組み」と、「園での活動を理解し保護者が子どもと共感的にかかわる家庭での活動の様子」を、分析的に読み取ることで、学びの連続性が把握でき、「科学する心」が育まれることが分かります。